

資源の有効活用の取り組み

基本的な考え方

ミネベアミツミグループの製品に欠かせない金属、プラスチックなどの原材料や、エネルギー源となる石油、天然ガスなどは、その埋蔵量に限りがあります。また、電子機器製品に不可欠なレアアース(希土類元素)は、産出国に限られるため、輸出制限などを受けやすくなっています。

当社グループでは、事業活動の継続のためには資源の有効活用が重要であると考え取り組んでいます。

2018年度の取り組み結果

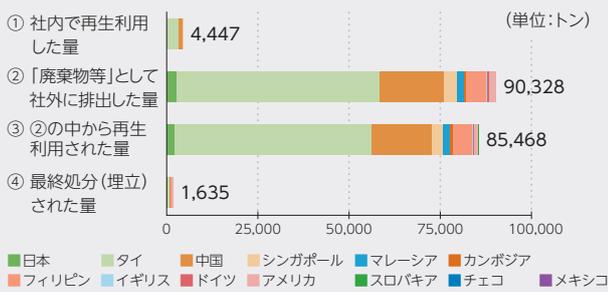
2018年度にミネベアミツミグループ全体で使用された主な原材料は、鋼材:約102,966トン、樹脂:約17,850トンで、合計量は2017年度と比較して約2%増加しました。

一方、当社グループから社外に排出された後、最終処分(埋立)された廃棄物量は1,635トンでした。2017年度と比較した場合、2018年度は56トン増加しました。

また、当社グループではタイや中国の量産工場において、工場内で発生した排水を可能な限りリサイクルし、工場外に排出しない「工場排水ゼロシステム」を運用しています。

2018年度の当社グループにおける工場排水量は3,548,735m³で2017年度と比較して59,391m³の増加となりました。

■ 廃棄物等処理実績 (2018年度実績)



事業所における取り組み

建て替え工事で発生した廃材の再利用 (日本:秋田事業所)

秋田事業所では、社屋建て替え工事に伴い、旧建屋の基礎コンクリートを細かく粉砕して敷地の敷石として再利用をしています。新社屋(3階建て)は2020年2月に完成予定です。



コンクリートをガラパゴス粉砕機で粉砕 (2018年9~8月)



敷石として再利用(白い部分) (2018年9~10月)

廃プラスチック削減アクション(カンボジア)

社会インフラ・教育制度が十分に整わず、ゴミ収集、分別、廃棄などが大きな社会問題となっているカンボジアにおいて、カンボジア工場では、同国内においていち早く食堂のプラスチック廃棄物を削減する取り組みを開始しました。

約9,000名にのぼる現地従業員が高い環境意識を持ってボトムアップで対策を進め、従来の食堂で使用していたフルーツの使い捨てのビニール袋による販売を、2019年3月より再利用可能なプラスチックプレートでの販売に変更し、1カ月当たり約16万枚、重量にして312kgのビニール袋を削減しました。今後は竹製のバンブーストローや再利用可能なプラスチックカップの導入も検討し、1カ月当たり10万個のプラスチック廃棄物を一層削減する計画です。

プラスチック廃棄物はG20大阪サミット(2019年6月開催)でも重要テーマの一つに挙げられ、世界的な社会課題となっています。ミネベアミツミはカンボジアでの成功例をグループ全体で共有し、約10万人の従業員が一丸となり、廃プラスチック削減に取り組んでいきます。



ビニール袋での販売

再利用可能なプラスチックプレートでの販売

今後の目標・課題

2019年度の廃棄物の最終処分量目標は、「生産高原単位で2015年度比12%削減」として取り組みを進めます。

また、現在、埋め立て処分されている廃棄物の性状調査や市場分析などにも取り組み、今後より一層の削減を目指します。